



明日をつむぐ



特集 わが事業所のイチオシはこれだ！



no.07

イルカ作業所

詳細記事はP4～5

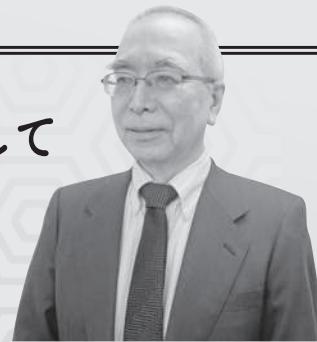
Topic

- | | | |
|----------|-------|----|
| 年頭所感 | | P2 |
| 新成人紹介 | | P3 |
| 相談支援の窓から | | P6 |



自分の目でしっかりと判断し行動する自律した個人として 交流を密に学び高めあう関係づくりに努力を

社会福祉法人 みなと福祉会 理事長 高木弘己



明けましておめでとうございます。旧年中は皆様に本当にお世話になりました。ありがとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

この2年間で、利用者、職員の家族も含めると感染者は延べ400名をこえ、事業所の一部休所など大変な混乱をひき起しました。幸い大規模なクラスターとはならず、今の事態を迎えてます。これは皆様のご協力と職員の努力によるものと深く感謝しております。社会全体としてはwithコロナと称され、感染の行方がまだ不明の中ですが、防御策は曖昧になり感染の蔓延が起こっています。重症化・死亡、医療崩壊を防ぐと言いながら、今病院は逼迫する状況です。コロナ禍が明らかにしたこと、飽くなき利潤を求める地球環境を破壊した社会システムへの警鐘であり、医療、福祉、教育、公共サービス、生活インフラなどの日常生活の維持に不可欠な職業（エッセンシャルワーク）の重要性とその貧困さです。

しかし、次のステップで行われる政策はむしろ悪化です。病院病床数削減、高齢者医療費負担の増加、要介護1・2の方の介護保険外のうごきなど、少し周りを見ただけでも社会保障費は削減の一途です。さらにロシアのウクライナ侵略は、戦争が人々の生活の破壊、地獄をつくることを明らかにしました。軍事同盟は世界の平和・安心を破壊する戦争を生み、不安による戦争能力強化は人権と生活、社会保障を破壊します。大砲とパンが両立できないことは昔からの真理です。平和と人権・生活の保障がやさしさを育てると思います。

岸田首相は、アメリカ訪問の手土産として「安保3文書の改訂」「43兆円の防衛費」「国民への税負担」を閣議決定しました。また「国債で防衛費を負担」という先の戦争への反省から禁止された「軍事予算を国債でまかなう」亡国の議論さえ出ています。古賀元自民党幹事長は中日新聞インタビューで「日

本の安全保障は、政治、経済、国防、外交といったありとあらゆる力を結集し軍事大国への道を避けるのが基本」「専守防衛の逸脱は抑止力より不安の方が大きくなる」。また戦争体験者として「平和を・・これからが本番だ」と話されています。私はこの思いに共感します。今年は本番だと感じます。戦争の歴史は障害者をつくり差別してきた歴史です。私達が自分の目でしっかりと判断し、行動する自律した個人として参加していくことが必要です。

この制約の中でも私達は取り組みを強める必要があります。パン・お弁当・肉まん・餃子などの豊かな経験を法人全体に広げる取り組みを創造していくこと。そして生活支援のねがいに応えられる状況をつくり、地域の障害者の生活・労働の場を支援する取り組みが求められます。

その為には人材養成、財務管理、情報共有と効率化が不可欠です。今年、ぜひ皆さんとやり遂げたいことは「お互いに学習し育ちあえる職場づくり」「情報を共有し統一して取り組める技術とシステムづくり」「財務管理に習熟し能率よく科学的に取り組める力量」をつけることです。

またコロナ禍の混乱で、家族と職員との心を通い合わせる場や時間が極端に減りました。これは仲間や家族・職員にとり重大なことです。家族の皆さんと職員との交流を密にし、家族の方から長年の障害者支援の先輩として培ってこられた思いと支援の技術を学びたいと思います。感染対策を行いつつ、お互いの心の通いあい、学び高めあう関係づくりに努力したいと思います。同時に家族の皆さんにも、法人の事業とサービスの提供にボランティアとして、また職員として参加していただければと考えています。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

新成人の 仲間の紹介



今年は3名の仲間たちが20才を迎えるました。それぞれ事業所ごとに工夫をこらした成人式を行いました。新成人の仲間の紹介と担当の職員からコメントも寄せていただきました。



さかしたこうき 坂下偉基さん (わーくす昭和橋)

「毎日、紙折りの作業を頑張っています。ミュージックケアが好きです♪これからも笑顔で頑張りたいです。」(本人談)

先生方や支援者の方、多くの温かい人に支えられて、20歳の成人を迎えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。「ありがとうございます」の気持ちと、これまで積み重ねてきた経験を大切にして、これからも笑顔と健康で過ごせることを願っています。成人おめでとう!!(母)

担当職員より

偉基さん成人おめでとうございます。学校を卒業して過ごす環境も変わり、たくさんの大変なことがあったと思います。難しいことにぶつかってしまう時もあったけど、一緒に頑張ってくれる偉基さんの姿は輝いていました。これからもいろいろな事に挑戦したり、楽しみながらたくさんの思い出をつくっていこうね。偉基さんにとって素敵なお1年となりますように。(木下)



かたおかだいき
片岡大輝さん
(イルカ作業所)

「作業所で1番楽しいことは何ですか?」と質問すると「職員や仲間とお話しすることです」と答えてくれました。他法人のホームを利用し、休日には大好きなお父さんや弟と旅行に出かけたり、ヘルパーさんと一緒に動物園やカラオケに出かけ楽しんで生活しています。作業所での仕事は主にふきん製作をとりこんでいます。はじめは難しいと思った作業にもまわりの応援をまっすぐに受けとめ頑張っています。

担当職員より

成人の仲間入りおめでとうございます!!

イルカ作業所の仲間となり、もうすぐ2年が経とうとしていますね。ふきん作りでは、ミシンにも挑戦し、今では大活躍!一緒にすごす中で片岡さんの成長を感じています。これからも一緒にたくさんの思い出を作っていきましょうね。

(大村)



さかしたこうき 坂下偉基さん (わーくす昭和橋)

「毎日、紙折りの作業を頑張っています。ミュージックケアが好きです♪これからも笑顔で頑張りたいです。」(本人談)

先生方や支援者の方、多くの温かい人に支えられて、20歳の成人を迎えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。「ありがとうございます」の気持ちと、これまで積み重ねてきた経験を大切にして、これからも笑顔と健康で過ごせることを願っています。成人おめでとう!!(母)



なかしまひゅうま
中島翔馬さん
(しおかぜ作業所)

ぼくは、おしゃれでかっこいい大人になりたいです。一人で色々なところに出かけられるようになりたいです。行きたい所は長島スパーランドで、ジェットコースターに乗って楽しみたいです。野菜の下ごしらえの仕事をもっとがんばりたいです。今は、スライサーを使ってにんじんを切ったり、長ネギや大根を包丁で切っています。ほうれん草や白菜をざくざく切るのも挑戦していきたいです。

担当職員より

挑戦することにとっても前向きな翔馬さん。みんなとの関りを大切にする翔馬さん。これからも人の出会いを大切にし、仲間とともに、素敵な人生を歩んでいってほしいと思います。そして、「翔馬」という名前の由来にあるように、未来に向かって自由に駆け上がっていくことを願っています。(太田)



イチオシはこれだ！

野菜・ふきん
イルカで販売しています！

作業所



作業所



ふきん制作

生地を折ることからミシンまで
取りくんでいます。



ふきんの直線縫い作業

ロックミシン



ミシンの仕事を
がんばってます。



ミシンとロックの仕事を
やっています。
毎日、ミシンの仕事
がんばってます。

ダンボール、新聞、雑紙など
資源となるものを回収しています。

回 収

車に乗って
ダンボール回収しています。
重くともがんばって
毎回運んでいます。



地域のみなさまから
いただいた缶を
袋の中に入れています。
いつもご協力
ありがとうございます。



いろいろな
仕事をやっています！

ふきん・畑・資源回収・下請け等
いろいろな仕事を行っています

畠しごと

暑い日も寒い日も出かけています。



畠仕事が好きです。
草とりの仕事がんばって
キレイにしています。

ニンジンの間引きが好きです。
畠の仕事は楽しくて
毎日仕事へ行くのがワクワクです。



ダンボールの積み込み作業



資源

ダンボールの回収



国会請願署名はじまる

国会請願署名・募金運動へのご協力をお願いします。

「きょうされん国会請願署名」は、

今年で46回目になります。12月7日には3年ぶりに名古屋駅西口にて、署名と募金に取り組みました。愛知支部全体で30名近くの方が参加しました。みなと福祉会でも7名参加をしました。仲間も職員も寒い中ではありましたが、自分たちの現状を訴えてきました。

ていきます。

- 1 優生保護法の被害者に対する謝罪と補償をしてください。
- 2 コロナ危機にあっても、障害のある人の命と健康、そして障害児者事業所運営を守ってください。
- 3 物価高から、障害のある人の生活と障害児者事業所運営を守ってください。
- 4 障害のある人が65歳になっても費用負担なく、障害福祉を使えるようにしてください。

以上の4点になります。ぜひ、ご協力をお願いします。

コロナの厳しい状況は続きますが、こんな時だからこそ一層、署名活動を推進していきたいと思います。

(あいされん中西ブロック長 相川真人)

今回の請願署名の主な趣旨は、障害の医学モデルから人権モデルへの転換、地域社会での自立生活に必要な法整備と予算措置、そして、優生思想根絶のための法的処置などです。また、コロナウィルス感染拡大の長期化や尋常ではない物価高騰は多くの障害のある人の生活を脅かし、障害福祉制度の欠陥を浮き彫りにしました。障害のある人の暮らしや社会参加よりも、財源問題を優先させようとする政策は、障害者権利委員会の勧告に背を向けるものと言わざるを得ません。

今回は、障害のある人のいのちと人としての尊厳が守られることを切に願い、以下の項目について請願し



ご協力お願ひいたします。
.....締め切り.....
2023年4月末日

相談支援の窓から

Part.08

暮らしの場について



私が重要なことです。

また、最近では20代で作業所に通所している方や学校を卒業された方などに対し、グループホームのご案内をさせていただくこともあります。家族の方からも、積極的にホームの相談があるので、年齢が若い時に入所を検討する流れになってしまっているように感じています。早い時期に親元から離れて生活することで環境に慣れるのも早いと考えられているからです。以前は、入所というのではなく、親元から離れて生活することと環境に慣れる所でしたが、現在のグループホームでは、楽しい場所、成長できる場所といったイメージが強く、グループホーム側も様々なコンセプトを掲げて運営しているところもあり、見学・体験などを踏まえて自分で決められる時代になってきています。どんな事でも、お気軽に相談をいただきたいと思います。

(相談支援事業所あしたの家 犬飼誠)

障害福祉サービスには暮らしの場として障害者支援施設やグループホームなどがあります。ここ最近、入所を考える方やその家族が増えてきているように感じます。例を挙げると、「8050問題」と言われ、親が80歳を超えたあたりで50歳を超えた子を支えきれなくなり、グループホームを検討するケースがあります。相談員として、モニタリング時に家族と面談していくのですが、親元から離れ施設にお願いをすることに対しても心配が先に立ってしまい、なかなか決断できない方が多いです。しかし、家族の目線で考えれば心配するのは当然です。私たちとしては、家族の気持ちに寄り添いながら、信頼できる施設を探し、安心してもらえるようにしていくことが重要です。

きょうざれん 次世代管理者研修に参加して

研修は前期と後期で行われ、前期の研修はコロナの関係でオンラインで行いました、その中で特に印象的だったのは「憲法」の事でした。日本憲法の事は中学校の授業以来、勉強してきませんでした。しかし、その「日本国憲法」がどんな意味を持つていて、なんで大切なのか、そして、戦争をしないでいるためにはどうしていけばいいのか、とても考えさせられました。そして、日本国憲法はすごく大きくて、とても身近にあるものだと感じました。

後期は研修を受けている他法人の職員さんと福島に行き実際に被災地を見て回れたことが一番印象深く、衝撃的な体験でした。郡山駅からバスで出発して双葉町に向かいました。道中ではまだ帰宅困難区域が解除されていない場所があり、家の入口やわき道に入るところに立入禁止の柵がしてあり、いまだに徒步では移動できない場所があるところを通り、地震と津波の被害だけではなく「人災」と言っていた原子力発電所の放射能の問題に対しても考え方をさせられました。復興つて何だろう



（イルカ作業所
高井宣也）

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
明日をつむぐ「新春号」はいかがでしたでしょうか？

今回はイルカ作業所の特集で、ふきんと畳しごとの様子を紹介しました。

表紙の写真はコロナの影響で、中止してきた日帰り旅行にやっと行くことのできたよろこびがあふれているようです。

コロナ禍も4年目を迎えようとしています。まだまだ終わりが見えない中、感染の拡大防止に努め、苦戦を強いられるながらも誠心誠意、現状と向き合う作業所の姿があります。各作業所において日々培われてきたものが変化への対応力という形で試されているのではないかと感じます。

まだまだ寒さ極まる季節が続きますので、体調管理と、コロナ禍だからこそこの「集団」を意識した心の繋がりを大切にしていきましょう。（内田篤史）

合計6日間の研修に参加させていたただき、ありがとうございました。

自分が考える以上の苦労をしてこの11年を過ごされている。そして、それが日常になってしまっているという事実がとても重くのしかかってきました。話の中で、一番ダメなのが「見て見ぬふりをすること」と言っていたので、知る努力をすることと、知った後にどうやって行動に移していくべきなのかを考え続けないといけないと思いました。

寄付お礼

イルカ作業所 / イオン南陽店 クリスマスプレゼント



今年はイオン南陽店様と一緒に3年ぶりに交流してのクリスマス会の予定でしたが、新型コロナ感染拡大で残念ながら叶いませんでした。クリスマス会の昼食の唐揚げ、サラダ、クリスマス用のケーキの材料、クリスマスプレゼントを寄贈していただき、仲間のみなさんはオリジナルのクリスマスケーキを作り大満足でした。クリスマスプレゼントも大喜びでした。ありがとうございました。

冬の物販売のお礼

冬のボーナスを支給するために、地域の団体や、関係者の方に物販売のご協力をお願いしました。物価高の影響を受け、いろいろな商品が値上げをしており、ご負担も大きかったと思いますが、たくさん購入していただきました。

12月9日に無事、ボーナスを支給し、グループごとに忘年会を行いました。自分の食べたいお昼ごはんをテイクアウトして、おいしく食べました。皆様のご協力に感謝いたします。

ありがとうございました。（イルカ作業所・うろじの家）

ともに育つ会 ニュース



港区障害者(児)とともに育つ会
〒455-0803 港区入場1-114-1
TEL (052)355-8000

2023年 新春号



ともに育つ会学習会

年の初めに、「今年も、どうかいい年でありますように」と誰しもが願う。昨年はいい年だったのか、悪ければどうか今年は良い年でありますようにと。ところである紙上で、アイルラン

明けましておめでとうございます。
「福福は糾あさなへる縄のぞとし」
良いことも悪いことも順繰りにくるという言葉です。

港区障害者(児)とともに育つ会 会長 磯崎明美

新春号に寄せて

ドのダーラ・マカルティさんが、自然をブログで紡いでいました。彼は自閉症という障害です。自然の中に身を投げ出す時、自分らしくなれる語り、「僕が望むのは、鳥の歌、溢れんばかりの羽ばたき、虫のハミング。猛毒や破壊はいらない。成長の為の成長は終わりにしなければ、僕の世代は目にできるのか。本来の反乱を。」

環境活動家である彼は、自然の世界を愛するだけでなく、守る事が僕ら全員の務めだと語っていました。そして自然に気付く事が全てのスタートだと言います。足を止め、耳を澄まし、目を凝らす。新たな発見は喜びをもたらします。

私たち、理想を見つけ、実現し、精神両面の活動をしながら、世界観を持つことが問われています。世界とはこういったものだ、その中で人はこう生きるものだという世界。人生に対する見方ともいう。

私たち人は、様々な実践をする中で、それが知恵となり、教養が身につき、世界観が生まれ、身につくもの。

人が学び始めるのは、自分の悩みや問題を見据えることができ、その状況を何とかしたいと、本気で考えた時。

私たち、困ったり悩んだり、そのことを何かしたいと切実に思うことで、情報の選別をし、それを解決し、実践を繰り返し、そのことで世界観とループが回り、世界観が育まれてきました。人はこう生きる、やりたい事に執着せず、誰か

に喜んでもらえるかも知れないと思うことをやつしていくと、やるべき事をやり終えたと納得して、人生の最後を迎えたならと思います。

人はとどまることなく変化しつづけている。生きていく限り、どんな年齢であろうと、常に新しい瞬間を迎えて、明日何が起きたかドキドキし、今日をこの一日を夢見る様に生きていくましょう。保身の為の嘘をつく政治家を見習わず、脱施設を声高に、障害者が安心して暮らせる場の選択肢を国が増やしていない中、その施策は喫緊の課題です。

「他の人と学ぶことで人は変われる」「微力だが無力ではない」「細く長く社会に関わり続ける」とお笑い芸人の「せやるがいおじさん」が出会った言葉だ。

微力を集結させ今より更にいい社会に!



2022年11月13日、14日
港生涯学習センター文化祭実行委員長として